

質問（16条関連）

1. P220 f) 2) 曲げ降伏を許容しないカットオフ筋の付着について

「その他の記号については、修正係数が $\alpha_2 = 0.75$ とし」とありますが、1段目のカットオフ筋を検討する場合は $\alpha_2 = 1.0$ としてよろしいでしょうか。

2. 計算例における有効せい d について

P236 で上端筋 1 段目通し筋の付着応力度 τ_D を求める際に、 d は一段目の d_1 を使用していますが、2 段目の通し筋を検討する際には 2 段目の d_2 を使用してよろしいでしょうか。

P237 で 2 段目のカットオフ筋の付着応力度 τ_D を求める際には、全主筋による d_e を使用していますが、 d_2 を使用するのは問題ありますか。

また、1 段目のカットオフ筋を検討する際には、1 段目の d_1 を使用してよろしいでしょうか。

(匿名希望)

回答

1. 1 段目のカットオフ筋を検討する場合は、 $\alpha_2 = 1.0$ とします。明記されてはおりませんが、p.220 f) 曲げ降伏を許容しない多段配筋梁の検定方法では、最内段の鉄筋（2 段配筋では 2 段目鉄筋、3 段配筋では 3 段目鉄筋）のカットオフを想定しておりますので、1 段目鉄筋のカットオフについての説明は省略しております。

2. 2 段目の通し筋やカットオフ筋の検討で τ_D を求める際、 d_2 を用いる方法はあると思います。設計する方が判断すればよいと考えます。